

## 研究の内容

### 1 豊かな経験につながる自然のもつ教育的価値

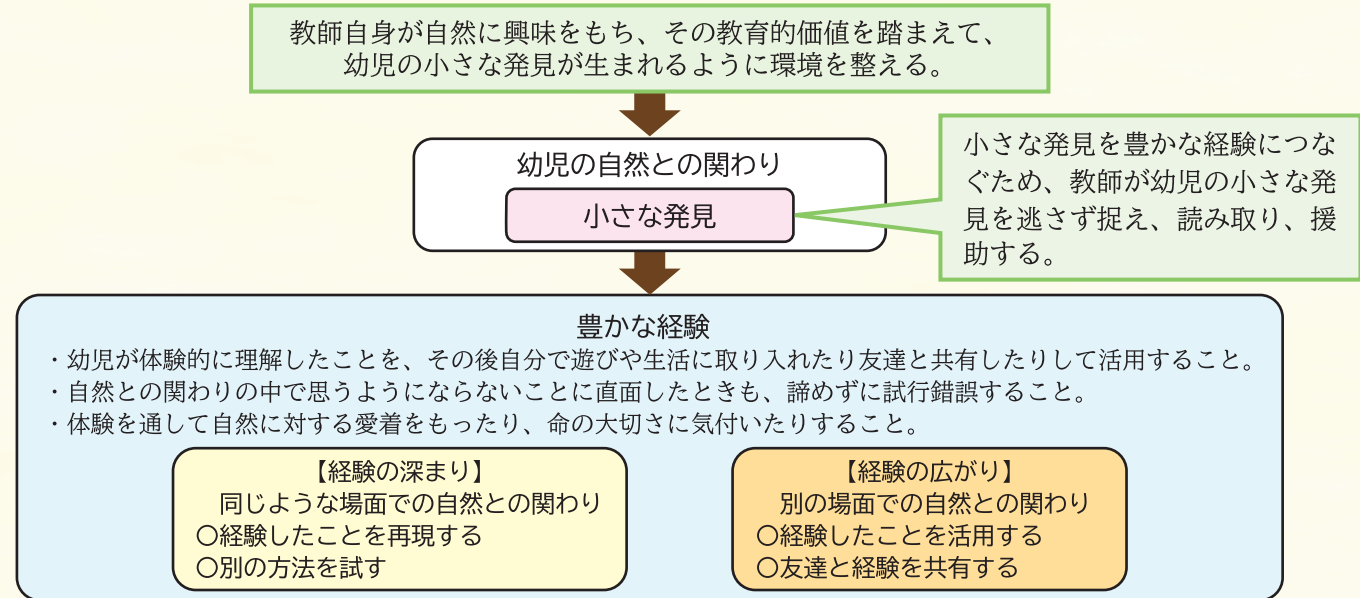
- 幼児は自然と直接関わる中で、心を揺り動かす体験をしている。その感動体験が次の活動への動機付けとなり、幼児の豊かな経験となる。
- 様々な感情が芽生える体験を友達と共有し共感し合うことで、より豊かな感情が得られ豊かな経験となる。
- 自然現象や生命との関わりなど、思うようにならないことに向き合い、幼児なりに考えることが豊かな経験となる。

### 2 小さな発見を豊かな経験につなぐ過程

<幼児の小さな発見とは>  
幼稚園教育要領解説には幼児が自然と触れ合う際の留意点について「幼児が心を動かされる場面は、必ずしも大人と同じではないことにも留意しなければいけない。<中略>幼児は日常の何気ない生活場面で心を揺り動かしている。このような幼児の自然との出会いを見逃さないようにすることが教師の関わりとして大切である。(P. 195)」とある。本研究では、大人が見過ごしがちな幼児の発見が豊かな経験につながるかと考え、**幼児が自然との関わりの中で心を動かしている場面を幼児の「小さな発見」と表し、それを逃さないように読み取り援助していくこととした。**

<保育に自然を取り入れる際の留意点>  
○教師自身が自然に興味をもち、面白がって関わる。  
○幼児の自然との関わりが豊かになり、小さな発見が生まれるように園庭の自然環境の整備・工夫をする。  
○教師間でエピソード記録を紹介し合い共有する。(保育の振り返りと複数の教師による読み取り)  
・季節の変化や幼児が身近な自然との出会いの中で、小さな発見をしていることを逃さないよう、毎週、保育のエピソードを共有する。学級や学年の枠を超えて視野を広げることで幼児理解を深めるとともに、他の教師の実践や援助を自分の保育に生かす。

実践事例の分析・考察を繰り返し行った結果、幼児の小さな発見を豊かな経験につなぐ過程を次のように捉えた。

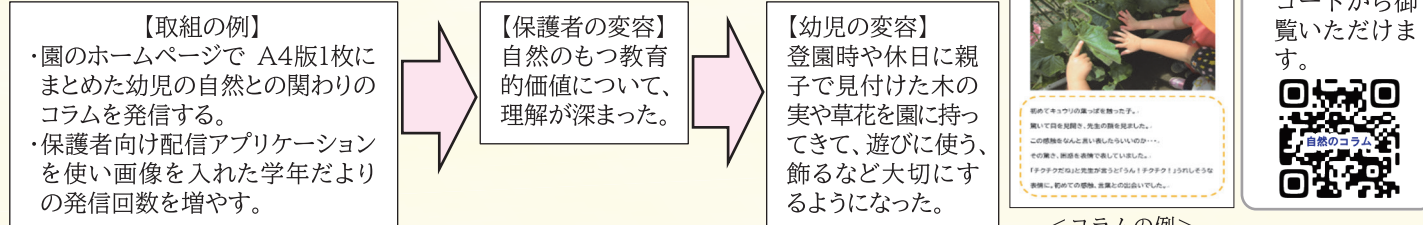


### 3 幼稚園の生活と家庭が連続性をもつための取組

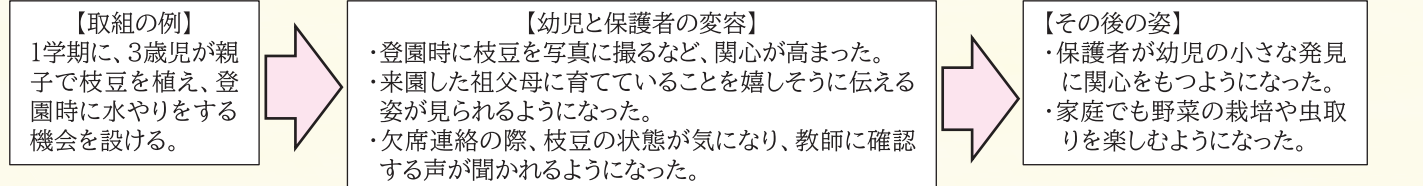
幼稚園の生活が家庭と連続性を持ち、幼児の豊かな経験につながるようにするためには、園の教育に対する保護者の理解が不可欠である。

そこで、本研究に対する保護者の理解を促進するため、新たに以下の2点に取り組んだ。

#### ○ICT機器を活用した自然のもつ教育的価値の発信



#### ○親子で野菜を育てる体験の導入



## 研究のまとめ

研究のまとめを教師の変容、幼児の変容、家庭との連携の成果の3点から述べる。

#### <教師の変容>

- 教師自身が自然に興味をもち、その教育的価値を知り、進んで関わるようになったことで、園庭の自然環境の特性を知ることができた。自然の変化にある程度の見通しをもち、安全面への配慮もしながら園庭環境の整備や工夫に取り組めるようになった。
- それぞれの幼児の小さな発見を逃さず受け止めようとする姿勢が身に付いた。学年や時期に捉われすぎず、幼児が感じていることを大切にしたい援助をするようになった。
- 実践事例を検討する中で、自然との関わりにおいて正解は一つではないことを実感した。教師が意図した結果に誘導するのではなく、幼児と一緒に悩みながら考えていく姿勢で援助することを意識するようになった。
- 幼児が自然との関わりから経験したことを、別の場面でも思い出し活用できるようにするために、幼児の経験を読み取り、つながりを意識し援助するようになった。

#### <幼児の変容>

- 間接体験で得た知識に加えて、実際に体験したことを基に考えたり予想したりする姿や、経験したことを生活や遊びに取り入れ活用する姿が見られるようになった。
- 自分から興味をもって自然と関わるようになった。また、面白く感じたことに繰り返し取り組む中で、新たに気付きを得る喜びを感じたり、探究したりする姿が増えた。
- 思い通りにならないことに直面しても諦めずに考えたり、別の方法を試そうとしたりするようになった。また、自然との関わりを深める中で、幼児なりに自然への愛着を感じ、命の大切さについて考えられるようになった。
- 同じ学年の幼児間で情報が共有されるだけでなく、5歳児から年下の幼児へ遊び方が継承されるようになった。また、果実の収穫や土工場等、本園ならではの環境があることで生まれる活動では、前年度の5歳児の姿や教えてもらったことを覚えていて、期待をもって取り組む姿が増えた。

#### <家庭との連携の成果>

- ICTを活用した情報の発信は、コロナ禍における参観の機会の減少や欠席者の増加に対して有効であった。幼児の発見を写真で分かりやすく発信した後、降園時や面談等の機会に保護者に個別に幼児の成長を伝えることで、幼稚園教育の理解や幼児の発見を保護者が受け止めることにつながった。自然のもつ教育的価値について保護者の理解を得られたことで、幼児の豊かな経験につながるという成果を得た。
- 親子で野菜を育てる体験を導入したことで、自然と関わる体験を親子で共有することにつながり、保護者の幼児理解や自然のもつ教育的価値への理解が深まった。

## 今後の課題

- 今後の課題については次の3点である。
- ・研究を始めた頃は、臨時休業や保育時間の短縮によって教師が園庭の整備に費やせる時間が十分にあったが、現在はその時間が減っている。今後は限られた時間の中でも必要な環境を整えるために教職員間で連携をとりながら工夫して取り組んでいく。
  - ・自然の四季折々の変化を意識して園庭マップを作成したが、長期的な変化を見通した実践は十分ではなかった。教師自身が季節の変化に敏感になり、幼児も変化を感じられるように、園庭の環境を整備・活用していく。
  - ・自然との関わりの中では予想外のことや思い通りにならないことがたくさん起こる。それを面白く捉え、改善策や別の方法を検討・共有する姿勢で保育に取り組んでいく。

ご指導いただいた先生			
<講師>			
学習院大学文学部教授	秋田 喜代美 先生	品川区立二葉すこやか園元園長	大竹 節子 先生
<港区教育委員会事務局>			
教育指導担当課長	篠崎 玲子	幼児教育担当専門官	佐々木 勝世 指導主事 神村 和輝
研究に携わった教職員			
園長	新山 裕之	主任	柳井 洋子
主任教諭	喜名 早智子	主任教諭	井上 円
教諭	坂本 咲季(令和3年度)	教諭	四方 真帆
		教諭	霧田 貴恵(令和4年6月まで)
		教諭	小澤 紅音(令和3年度)
		教諭	藤田 紀子(令和4年6月から)

## 令和3・4年度 港区教育委員会 研究奨励園

# 自然って面白い！

## —小さな発見を豊かな経験につなぐ保育を目指して—



## あいさつ

### 港区教育委員会教育長 浦田 幹男

青南幼稚園は、令和3・4年度 港区教育委員会研究奨励園として、その研究主題「自然って面白い！—小さな発見を豊かな経験につなぐ保育を目指して—」のもと、2年間にわたり研究を進めました。研究では、教師が一人ひとりの幼児の体験を他の幼児と共有・共感できるようにすることや、幼児の何気ない発見を逃がさず受け止める視点をもつことを大事にしてきました。この研究により、幼児が体験的に学んだことを、自分の遊びや生活に取り入れて活用するなど、自分の経験に深まりや広がりが見られるようになったことは、大変意義深いものです。各園・学校におかれましては、本園の研究成果を活用し、質の高い幼児教育の実現や、小学校教育との円滑な接続に向け、より一層、御尽力いただきますようお願いいたします。結びに、御指導・御助言を賜りました学習院大学文学部教授 秋田 喜代美 先生、品川区立二葉すこやか園元園長 大竹 節子 先生に感謝申し上げますとともに、研究を進めていただきました 新山 裕之 園長をはじめ、教職員の皆様に心から敬意を表します。

## はじめに

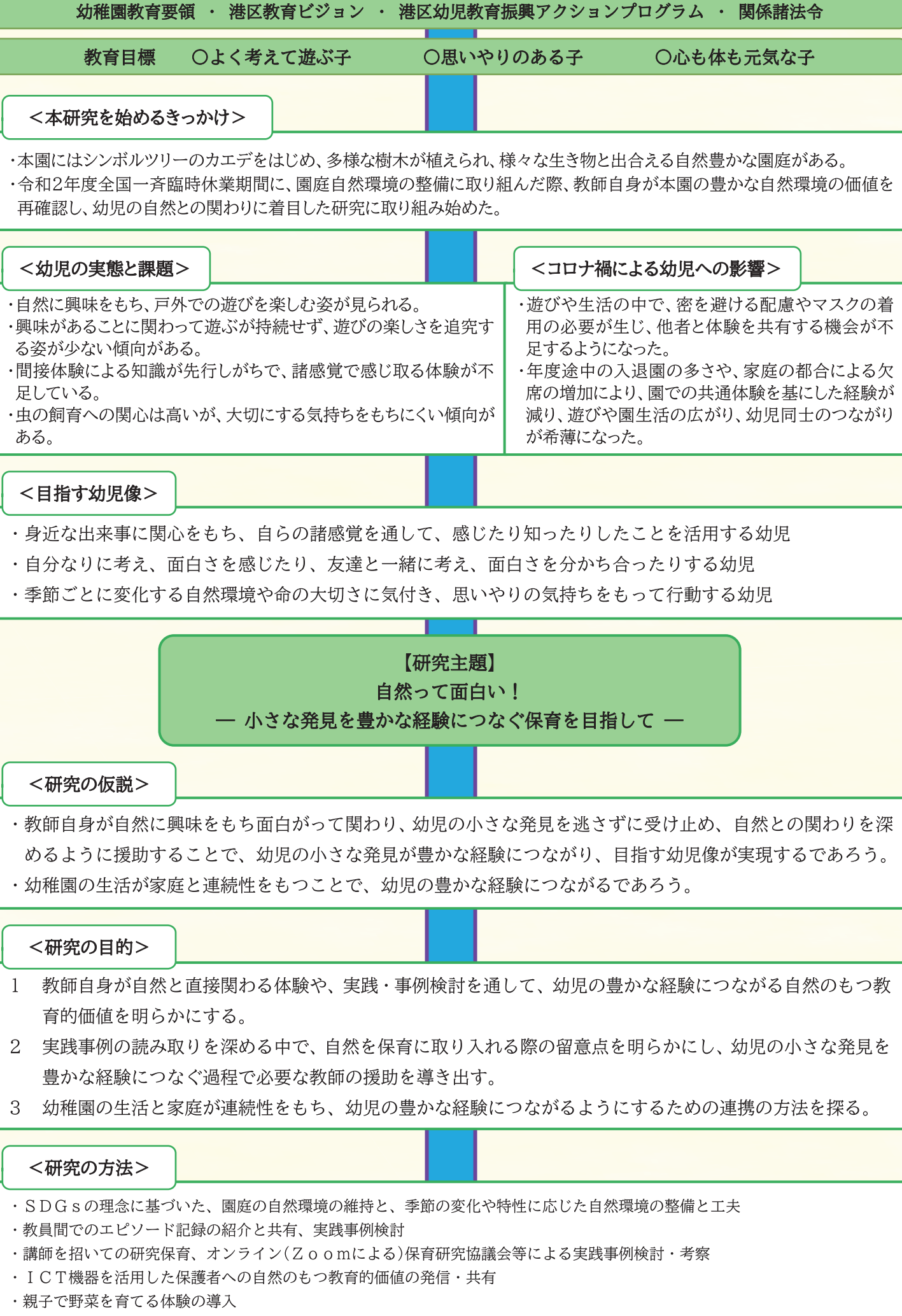
### 港区立青南幼稚園長 新山 裕之

私たちは、青南幼稚園の恵まれた自然環境の中で、保育できる面白さを感じながら研究を始めました。実践と研究を進める中では、面白とは何か、豊かな経験とは何かについて自分たちの実践を見直し、立ち止まる時期もありました。しかし、悩むときがあるからこそ研究が前に進み、実践の質を高めることにもつながると考えて取り組んできました。保育の奥深さや難しさを実感すると同時に、やはり面白さを感じようになっています。公立幼稚園として質の高い教育実践をすることは自園の子どもたちの育ちはもちろん、地域全体の幼児教育の質を高めることにつながります。そのためにホームページなどを使って積極的に発信もしています。研究の過程では、たくさんの方のお力をお借りしてきました。子どもたち、保護者、講師、港区教育委員会、そしてチーム青南の全ての教職員に深く感謝します。本研究が多くの皆様と保育を語り合うきっかけになれば幸いです。

令和4年10月27日

港区立青南幼稚園

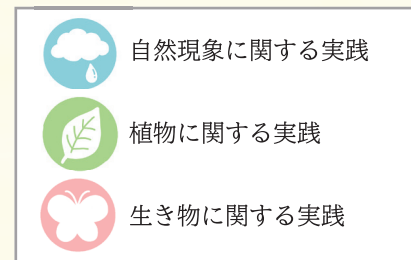
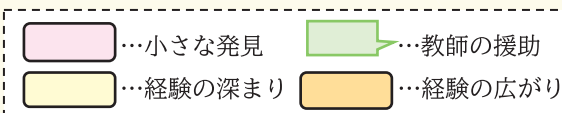
## 研究構想図



#### 4 豊かな経験の深まりと広がり

豊かな経験は、時として経験の深まりや広がりにつながることもある。そのことを教師が理解し、それぞれの幼児に応じた援助をすることで、経験の多様性と関連性が生まれ、さらに豊かな経験につながる事が分かった。

以下の図は、5歳児6月のジャガイモの収穫から始まった、経験の深まりと広がり例である。

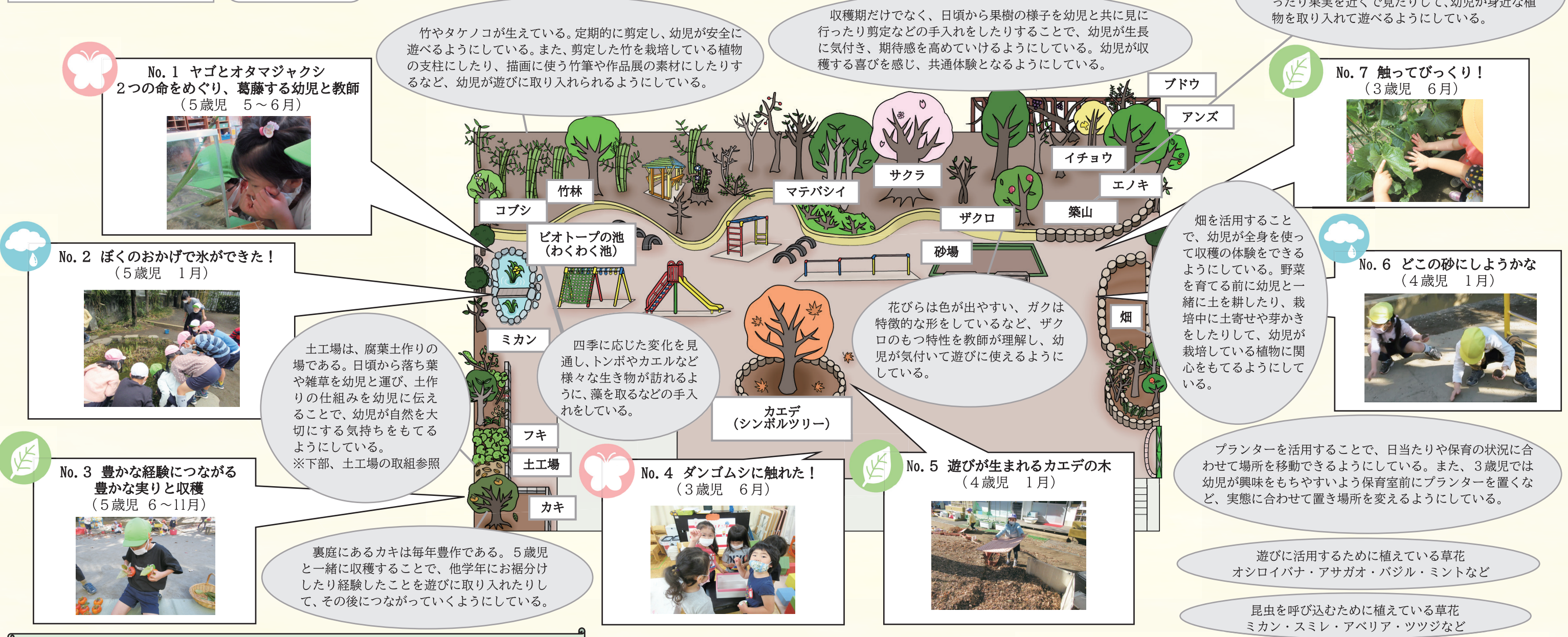


◆各実践事例の詳細は、下のQRコードから御覧いただけます。

## 小さな発見が生まれる自然豊かな園庭マップ

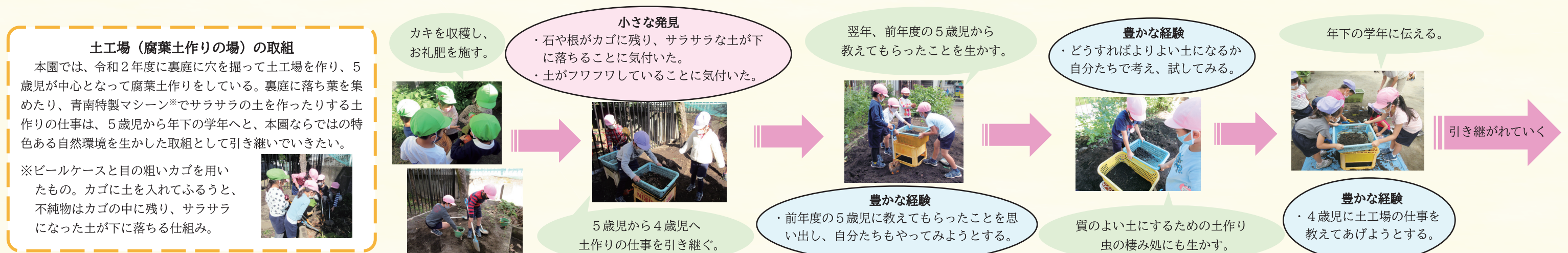
令和4年度 現在

本園の園庭の自然環境の豊かさは、歴代の教職員が計画的に四季の変化を告げる樹木や実のなる木の植樹、ビオトープ等の整備を継続してきた結果である。また、現在の教職員も季節に応じ、幼児が自然のもつ興味深さや面白さを楽しめるように、また伸び伸びと戸外で遊べるように、自然環境の整備を続けている。このことにより、幼児の小さな発見が生まれるような環境となっている。



**土工場（自然を大切にすることを引き継いでいくための新たな取組）** ※右頁 実践事例「5歳児との土作りの経験を通して」参照

世界共通の目標としてSDGsが重要視されている。本園では、「園庭の自然環境を大切に、幼児が関わる体験を十分得られるように工夫すること」が、間接的にはあるが、SDGsの理念を保育に取り入れることにつながると考え、研究の一環として土工場の取組を始めた。



#### 実践事例の紹介

研究に沿った実践を重ね、検討する中で、幼児の小さな発見と豊かな経験を捉え、それらをつなぐために必要な教師の援助を導き出した。ここでは、その実践事例の一つを紹介する。

#### 実践事例 4歳児 9月~10月「5歳児との土作りの経験を通して」

~小さな発見が生まれる~ 下線部は小さな発見を豊かな経験につなぐ教師の援助

**1日目：土作りの方法を5歳児に教えてもらおう**  
4歳児が夏野菜を植えていたプランターを片付ける際に、取り出した土を再利用する処理の仕方を5歳児に教えてもらうことにした。幼児は喜んで手伝い、共同作業を楽しんでいた。土をふるってカゴに残ったものを「宝物発見です!」と見付けると、5歳児から「ひげ(根)は土に混ざらないように取るんだよ。」と土工場に運ぶことを教えてもらった。教師は、幼児が気付いたことを受け止めたり、残った不純物を一緒に土工場に運んだりした。

【小さな発見】  
・5歳児のしていることに興味をもち、一緒にする喜びを感じた。  
・カゴの中に根や鉢底石が残ったことに気付いた。

~豊かな経験へ~経験の深まり(同じ場面での再現)

**2日目：自分たちで土作りをしてみよう**  
翌日も夏野菜の後片付けをすることにし、「今日は5歳児が手伝いはできない」と伝え、自分たちだけでする意欲を引き出すとともに、5歳児との取り組みを思い出せるようにした。A児が張り切ってビールケースを取りに行き、B児やC児も何が必要か思い出し、スコップやカゴを持ってきて土をふるう準備をした。前日の土の感触を思い出しながら土をふるうと、できた土は水分が多くしっとりしていた。触りながら考え、「もっとフワフワにしよう。」とふるう作業を数回、感触を確かめていた。  
その後も、数日分けて夏野菜や、草花のプランターをきれいにする活動を取り入れ、繰り返し土をふるう経験が幼児に定着するようになった。

【豊かな経験】  
・土作りの仕方が分かり、5歳児に教えてもらったことを自分たちだけでできる喜びを感じた。  
・ふるった後の土の質が前日と違うことに気付き、もう一度ふるってみようとした。  
・カゴに残った不純物が土工場の栄養になることを知り、自分たちで裏庭の土工場に運ぶようになった。

~豊かな経験へ~経験の広がり(違う場面での活用)

**2週間後：カブトムシの幼虫の土をきれいにしよう**  
週明けの朝、カブトムシの幼虫の様子に気になるD児が「ウンチが増えてるかも。」と言い、飼育ケースの中を見ながら「(糞)がある!」と気付いた。他の幼児も集まってきたので、教師が新聞紙を持ってきて、糞と土を分ける作業をする場を整えた。D児は手で糞を集めていった。  
しばらくするとD児は飽きた様子であった。教師が「どうしたら集められるかな。」と問い掛けると、A児が「いいこと考えた!年長さんの!野菜の土をきれいにしたやつ!」と言って園庭に行き、砂場のふるいとバケツを持って帰ってきた。それを見たD児も、何をするのか気付き自分の分を取りに行った。A児とD児が「(糞) いっぱい集まったね。」と嬉しそうに見合いながら、一緒に残りの土をふるいにかけて糞を取り出した。

【幼児の小さな発見を豊かな経験につなぐ過程で必要な教師の援助】  
○幼児同士で伝え合う機会をつくることで、幼児の興味や意欲を引き出す。  
○5歳児に教えてもらう機会をつくることで、憧れの気持ちをもって取り組み、次日には自分たちでする意欲をもつ姿につながった。  
○繰り返し体験する機会を取り入れることで、自分の力で活用できる経験となる。  
・ふるう活動を繰り返し取り入れたことで、ふるいの仕組みや用途を理解し、カブトムシの糞を取る場面でも活用することができた。



【小さな発見】  
・5歳児のしていることに興味をもち、一緒にする喜びを感じた。  
・カゴの中に根や鉢底石が残ったことに気付いた。



【豊かな経験】  
・土作りの仕方が分かり、5歳児に教えてもらったことを自分たちだけでできる喜びを感じた。  
・ふるった後の土の質が前日と違うことに気付き、もう一度ふるってみようとした。  
・カゴに残った不純物が土工場の栄養になることを知り、自分たちで裏庭の土工場に運ぶようになった。



【豊かな経験】  
・土の中から糞を取り除く方法に、土作りで使ったふるいを使うことに気付きやってみた。